

全校集会 学校長の話（2026年4月14日）認証式

- おはようございます。認証式が終わりました。委員に立候補してくれた皆さん、ありがとうございます。そして、各クラスで係を引き受けてくれた皆さんも、ありがとう。
- さて、きょうは認証式にちなんで、「役割」の話をします。皆さんは、自分が引き受けた委員や係の仕事を、どんなものだと思っていますか。正直なところ、「じゃんけんで負けたから」とか、「誰もやらへんかったから」という人もいるかもしれません。それでもいいんです。理由はどうあれ、手を挙げたこと、引き受けたこと。それ自体に意味があります。
- なぜか。たとえば、教室の後ろの掲示物がきれいに貼り替えられている。配布物がちゃんと届く。給食の準備がスムーズに進む。こういうことは、誰かがやってくれているから回っています。でも、うまく回っているときほど、誰も気づかない。気づかれないけれど、誰かがやっている。その「誰か」に、きょうから皆さんがなったわけです。
- 僕はこう思います。役割を持つということは、「誰かのために動く」ということです。そしてそれは、目の前にいる人を大切にす、ということにつながっています。委員や係の仕事は、一つひとつは小さいかもしれませんが、でも、その小さな仕事が積み重なって、クラスの空気をつくっています。「このクラス、なんか居心地がいいな」と誰かが感じるとしたら、その空気は勝手に生まれたものではなくて、誰かの「小さな責任」がつくったものです。
- 逆に言えば、誰かが自分の役割を放り出すと、そのしわ寄せは必ず別の誰かにいきます。
- そして、去年の最初の全校集会でお話したことがあります。「生き抜く」ことよりも「生き合う」ことを大切にしてほしい、ということです。今の世の中は、競争が当たり前のようにあります。勉強でも、部活でも、将来の進路でも、つい「自分が勝たなあかん」「自分だけは生き残らなあかん」と思ってしまう場面があるかもしれません。でも、誰かを押しつけて得たものは、長くは続きません。「生き合う」というのは、自分も相手もちゃんと生きていける状態をつくる、ということです。助け合い、支え合い、おたがいを大切にし合う。
- きょう認証された委員や係の仕事は、「生き合う」そのものだと思っています。誰かのために動く。自分の役割を果たすことで、隣の人が安心して過ごせる。それが「生き合う」ということです。役割は「やらされるもの」ではなく、「誰かの居場所をつくるもの」です。北稜中が、今年も「明日も来なくなる学校」であるために、一人ひとりの小さな役割を大事にしていきたいと思います。以上です。